

## 田中寅夫教授の御退官によせて

田中寅夫先生は平成11年3月31日をもって京都大学を定年退官され、同年4月1日付をもって京都大学名誉教授となりました。田中寅夫先生には研究・教育をはじめとするあらゆる活動を通じて、39年の長きにわたって京都大学防災研究所の発展にご尽力をいただきました。田中寅夫先生のご功勞に対しまして、所員一同心から感謝の意を表します。

田中寅夫先生は京都府立峰山高等学校を卒業された後、京都大学理学部へ入学され、昭和33年3月に同学部地球物理学科を卒業されました。その後、京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程に進学され、昭和35年3月に修士課程を修了され、同年4月に京都大学防災研究所助手に採用されました。さらに、昭和40年4月に同助教授に昇任、昭和63年4月に同教授に昇任されました。なお、昭和45年1月に論文題目「Study on Meteorological and Tidal Influences upon Ground Deformations」により京都大学理学博士の学位を授与されています。

この間、先生は平成2年6月より防災研究所地震予知研究センターを担当され、また平成5年5月より平成7年4月まで京都大学防災研究所長を務められました。

田中寅夫先生は、学術研究および教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられますとともに、学内外において管理運営面におきましても多大の功績を果たされました。その主なご功績を示しますと次の通りであります。

研究面におきましては、簡易型長期観測用傾斜計、光波測量、GPS（全世界測位システム）による宇宙測位方式を開発・発展され、地震予知のための地殻変動観測を進めてこられました。特にGPSによる地殻変動計測については、試験段階から注目され、日本に1台もGPSがなかった時代から、国土地理院が1000台近いGPS定常観測点を持つに至る現在に至るまで研究面で学会をリードする傍ら、大学におけるGPS研究の方向性を示し続けてこられました。また、国際共同研究を通してインドネシアにおけるGPSによる地殻変動の研究と教育を立ち上げるなど、国際的な研究および教育を推進してこられました。

その一方でGPS測位における誤差要因である水蒸気分布の観測、GPSから入手される水蒸気情報をリアルタイムで気象数値予報に取り込む方法や、観測された水蒸気情報データベースを河川、水資源、水文循環の研究に役立てる日本型GPS気象学の立ち上げおよび発展に尽力され、地殻変動から気候変動に至るまでの地球システム科学を構想してこられました。研究分野を越えて新しい研究領域の舵取りをされる様子は、「下向き（地殻変動観測）の研究から、上向き（水蒸気観測）の研究への華麗なる転身」と称されました。

また、教育面におきましては京都大学大学院理学研究科をはじめ、京都大学教養部、京都大学大学院人間・環境学研究科の指導教授として多くの大学院生および学部学生の教育と研究指導を行われ、優れた後継研究者の育成に努められました。田中寅夫先生の指導を仰いだ研究者の中には、現在関連研究分野の第一人者として活躍しておられる方も少なくありません。

さらに、上述しましたように京都大学防災研究所長、地震予知研究センター長を併任されましたことをはじめ、京都大学評議会、同将来構想検討委員会、同教育課程委員会などの委員を務められ、京都大学の運営においても多大の功績を果たされました。

また、学会活動も活発に行われ、昭和52年4月から昭和62年3月まで日本測地学会委員、昭和62年4月から平成9年3月まで同評議員、平成9年4月から平成11年3月まで同会長を務められ学会の発展に大いに貢献されました。国際学会においても平成3年7月から平成11年7月まで国際測地学協会（IAG）第7常置委員会（CRCM）総裁を務められるなど広く国際的にも活躍をされました。また、東京大学地震研究所、国立天文台、文部省学術審議会、日本学術会議、防災科学技術研究所、測地学審議会などの委員を務められ、地震予知研究の推進に大きな役割を果たされました。

このように、田中寅夫先生は学術研究ならびに教育におきまして多くの優れた業績を挙げられ、大学の管理運営および国内・国外における研究推進における管理運営に多大の貢献を果たしてこられました。

防災研究所は平成8年度の改組ならびに全国大学の共同利用研究所への移行、平成9年度の卓越した研究拠点(COE)の認定を経て、従来力を入れてきた災害を伴う自然現象の予知・予測と災害の防止・軽減のための構造的な対応法の研究といった理工学的な研究と、被災する側の人間及び社会の問題を人文・社会科学、計画科学、さらには危機管理までを含めた研究とを有機的に結びつけた総合的な研究の推進体制の整備を進めてきました。これに伴い、研究所の設置目的を災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究に変更しております。このことは分野およびセンターの垣根を超えて広く、その上さらに深化した防災学の追求を果たすべき時期を迎えていることを意味するものであります。

このように重要な時期に、深遠なる学識と豊かな経験をお持ちの田中寅夫先生が退官されますことは防災研究所にとりまして大きな痛手であり、誠に残念でございますが、田中寅夫先生の言われる「下向きの研究から、上向き横向きの研究へ、そして八方にらみの、八方から眺められる学問へ」に込められた意味を、残された所員一同がかみしめ、さらに防災研究所と防災学の発展のために粉骨砕身努力することにより先生のご労苦に報いたいと存じます。

田中寅夫先生におかれましては、今後ともご健康に恵まれ、新たな環境でますますご活躍されることをお祈りいたしまして、感謝の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成11年5月

京都大学防災研究所長

池 淵 周 一